



10月15日

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



時空「ニえて、つながっていく」

三菱地所と毎日新聞社による「#地球塾2050」が10月15日、東京都千代田区大手町2の常盤橋タワーで開かれました。首都圏の小中学生19人が参加し、私たちは「東京と地方がよりつながっていく」について考えました。

今日考えた私達の未来

私は今日、「#地球塾2050」に参加し、何十年後、何百年後にどんな未来になるのかなどをたくさん想像しました。

グループディスカッションで話したことは、東京と地方をつなげることについてです。東京と地方をつなげるためにには移動手段がカギになってくると考えました。異動にはお金や時間が必要になります。私達が考えたのはカプセルと管を使って空中で日本各地をつなげることです。ご飯を食べるために、この移動手段で北海道や沖縄に行ったりしたら東京と地方の美味しいものを知れたりして東京と地



方をつなげられると考えました。

すぐにいろんなところに行くには、移動時間が短いと楽ですが、旅の移動時間が好きという人もいます。なので、新しい移動法を作るのと同じに、今までの乗り物を残すことも大切だと思いました。

今日学んだことをいかして、自分の未来についてたくさん考えていきたいです。

(るい)

東京と地方をつなげるために

コロナ過で行ける場所が制限される中、東京以外の地方の名産物を現地から直接取り入れ、普段は足を運ばない場所や幅広い場所を知ることができる「アナザー・ジャパン」。物と物を取り入れるだけでなく、その裏側には「人と人との深いつながり」が隠れているのだと実感することができました。

地方や東京を行き来する際に、お金や時間などの多くのコストがかかってしまいま

す。最近ではインターネットで解決できるような時代へと進んでいます。けれど、「東京と地方をつなげる」ためには、実際に現地へ行き、時間の関係をなくして人とつながることが大切です。

瞬時にいろいろな場所に行き、触れ合うということを実感する。私は「つながる」ということは、場所に関係なく永遠につながっていけることだと思います。そういう未来を築き上げていきたいです。

(雫石華凜)



未来と現実が結びつく

「東京と地方とのつながり」というテーマで、私が実現させたいと思ったことがいくつか出てきました。

私は今まで深くこのテーマについて考えたことはなく、あまりイメージが湧かなかつたけれど、周りの人の意見を聞いていて、少しずつ自分の思い描く未来が現実と結びついていっていると感じました。

私が周りの人と話をしていて中で想像したこと。それは自分自身の身体に、何かを背負ったり着たりして、自分自身が空を飛び、地方に移動するということなのです。

もし、このようなことができるようになれば、個人の自由の幅が格段に上がります。地球塾で学んだこと

(N・R)

今回の地球塾で一番心に残ったことは、同じテーマを選んだ人とそのテーマについて話し合ったことです。私は「東京と地方がよりつながっていく」というテーマで話し合いました。

初対面の人と話すことはとても緊張しましたが、自分では思いつかないようなアイデアもあり、とても良い経験となりました。

東京と地方がよりつながって、都市で勉強していて休憩したいと思った時、地方の豊かな自然や海を間近で見たいと思えば、これを実現するためには遠く離れた場所に行けるだけ速く移動することが必要になります。しかし考えている間に、速くいかなくても空中で自転車をこぎながら、移動の間にも風景を楽しめると気が付きました。

今回の地球塾で、地球の未来を考えると面白いということを学びました。

(S・Y)

アナザー・ジャパンに感心

新しい知識と都会の現状を知りたくて、地球塾に参加しました。私がとても感心した部分が二つあります。

一つ目は「アナザー・ジャパン」の商品の提供の仕方についてです。アナザー・ジャパンのお店は、六つの地方出身の大学生が店員をしていて、地方の商品を販売しています。商品の調達の仕方がポイントで、現地で販売している人の所へ行って交渉しているのにすごく感心しました。



二つ目は、私が一番気になった広島市にある「おりづるタワー」というものです。おりづるタワーとは、第二次世界大戦の終戦100年に向けてつくられたものです。みんなが作った折り鶴を使って作られたのがすごいと思いました。

三菱地所が取り組んでいる「TOKYOが日本全体をアップグレードする」というのも、すごくいい考えだと思います。(齋藤奈緒)

「時間」を縮めて地方へ

私は今回、東京と地方のつながりについて学び、印象に残る思い出がたくさんできました。

見学させていただいた常盤橋タワーでは、地方とのつながりが強く、茨城県の芝生を使った小さい広場があったり、福島の復興支援のための「巨大赤べこ」があったりしました。

私はそこで地方との結びつきの強さにとても感心しました。

グループディスカッションでは、どのようにして「時間」を縮めて地方へ行くのかということがテーマになりました。そこで私が最も感心した提案は「プロペラをつけた自転車で空中を走る」です。自転車を使うという発想は自分にはなかったのでもって新鮮でした。地球塾に参加してみて、自分にはなかった発想が生まれ、とても楽しかったです。(阿部凜子)

未来、どう作る？

最初、あまり興味がなかったのですが「東京と地方がよりつながっていく」のテーマで話し合いに参加しました。結果的に、より興味を持つことができるようになりました。

このイベントで、2050年の未来をどのようにしてつくっていくのかを学びました。私は、空中で暮らすと

いう発想に驚きました。そして、私たちが話し合った東京と地方が早くつながるためには、一瞬で東京から鹿児島に行けたりするような近未来的な乗り物をつくるという案ができました。それにはお金や時間がかかってしまいます。つくろうと思えばつくれると信じて、未来に期待したいと思いました。

かつてのエアコンやエレベーターがなかった生活から、だんだん便利になってきました。未来に新しい社会を築き、新たな日本をつくっていききたいと思いました。

(栗原璃音)

よりたくさんの人々と

私は今、ボランティア部にいます。その関係で、NPO法人に将来就職しようと考えていました。私の中では、NPO法人といえば、障害者の支援など福祉に関わる団体が多いと思っていました。しかし、今日の体験を通して、「東京と地方をつなげる」というテーマにも興味を持ちま



した。この「つなげる」というテーマは日本全国の人々、全世界の人々と関わるすることができます。よりたくさんの人々と関わることはできません。将来のことはまだわからないけれど、今回のことを生かして、人の役に立つ仕事に就こうと思いました。

(U・A)

空飛ぶビルが笑顔を増やす

地球塾に参加してアイデアが一つ浮かんできました。それはビルごと移動して、日本各地に行くことです。

ビルの中には地方の特産物を積んでいます。そんなビルが全国に10カ所くらいあるといいです。ビルたちはスケジュールを組んで全国の空を飛び、移動します。コストは掛かるかもしれないけれど、利点がたくさんあります。たとえば、旅行ができる上に、災害など万が一の時には空に移動して避難ができるのです。さらに、燃料を水素にすれば、水に困ることも少なくなります。窓ガラスで太陽光発電したり、ソーラーパネルをつけたりすれば、水素が無くなっても飛んでいられます。

こんなビルができれば、地方の人たちともっと仲良くなれると思います。そうすれば、災害の時にも助け合いがうまくいって、みんなの笑顔が早く戻ってくると思います。(杉山陽七大)